

甦る日本の歌。驚異のサウンド・アート。

■現代に幻想する“日本的なもの”への試み

プロデューサー……中村とうよう

『恐山 / 銅之剣舞』『地の響』につづく芸能山城組の第3アルバムは、ファースト・アルバムについて再び、新しい日本の音楽の創造への試みの成果である。

芸能山城組の前身“ハトの会コーラス”の演奏会をぼくが初めて聞いたのは、ちょうど10年前の1967年のことだったが、そのとき彼らは、ロシア民謡やニグロ・スピリチュアルとならべて「大漁唄い込み」などの日本民謡を歌った。そのあともずっと、ブルガリアの女声合唱からインドネシアのケチャに至る外国の民俗音楽への挑戦と平行して、日本民謡や、日本の伝統をうけついで新作「サンタ・カララの歌」「原体剣舞連」などを取りあげてきた。71年に初演した「恐山」もその系列に属するレパートリーのひとつであることはいままでのない。

同じく71年に初演したのが、ここに収めた「刈干切唄」と「わらべ唄」であって、初演以来、前者は土屋由里子さんのソロをフィーチャーし、後者は土屋さんと柴田みどりさんのデュエットだった。ぼくはそのとき極めて新鮮な感銘をうけたことをいまも憶えている。

「柳の雨」は73年に初演したと記憶する。そのときは、北林恵美子さんという人がソロを歌い、神礼子さんが三味線を弾いた。神さんの三味線はまだタドタドしかったが、四畳半的なお座敷ムードいっぱいなのが、コーラスによってステージにかけられて、少しも違和感がないのがうれしかった。ぼくはそういうときにちょっとしたチグハグな感じでもあると、過敏なくらい気になるタチなのだが、そのぼくがスナナリなじめたのだから、初演から大成功だったと言っていい。

それらにくらべると、ぼくが大いに抵抗を感じたのが「狸」だった。この曲は、75年に初めて聞いたが、ただ長唄を無理にコーラスにしたという感じがうけず、エレキ・ギター、エレキ・ベース、ドラムスの伴奏もとってつけたような不自然さがあつた。あれじゃダメだよ、とぼくも何度もイチャモンをつけた。例えばこんなふうにしてみたら、とサゼッションをしたこともある。実は「刈干切唄」と「わらべ唄」は、ファースト・アルバム、セカンド・アルバムと平行して75年の秋に録音してしまったのだが、「狸」はなかなかものにならなくて、山城くんもずいぶん苦慮した。悩みに悩んだあげく、歌詞も作りかえ、曲もすっかり新しくし、思い切って模様替えしたら、こんなおもしろい作品になってしまった。

「咒陀羅秘行」はもっとも新しいレパート

リーで、76年から手がけ始めたものである。これには「銅之剣舞」の一部でやった、人声の自由な積み重ねの試みの経験も生かされているように思う。なおこの作品は、本来なま演奏の場では音の空間構成と定位感をダイナミックに変化させるという新しい音楽発想をもったものであるが、このレコード化にあたり、ビクターの音響技術研究所の開発した新しい音場技術を試用することによって、かなりなまの音場感に近づけることに成功した。

こうして、足かけ3年、マル2年の歳月を費して、このアルバムはようやく仕上がった。悩みながら試行錯誤してきて、最後にワッツと乗りに乗った勢いで完成へとこぎつけたという感じで、録音が終わったあとには、ヤッターという満足感と大きな自信を味わうことができた。こんなすばらしいアルバムになったのには、三味線の静子さんというまたとない協力者が得られたことの力もあずかって大きい。

「恐山」がそうだったように、今回のアルバムも、ぼくが現代に生きるものの中にある日本的な特質の根子（ルーツ）をさぐり、そこから新しい芽ばえを育てる試みだったわけだが、伝統の現代化という言葉では表わしきれない、プラス・アルファのようなものを、盛り込んだつもりである。それは、古いものを現代の生活感覚でとらえ直すというのではなく、現代人の中に生きる幻想のニッポンを新たに作り出すという姿勢だ。『やまと幻唄』というタイトルも、ひとえにそのことを言いたくてつけたものである。シンセサイザーをはじめとする現代楽器、洋楽器の使用もその目的のためである。「咒陀羅」のマントラはもちろんのこと、現代化した「狸」の歌詞だって、スーッと聞いて意味がとれなければ無理して言葉をわかっていただく必要はないとぼくは思っている。むしろ「咒陀羅」の摩訶不思議のひびきにサイケデリックなもの、スペース・ムーヴを感じ、「狸」のハレンチなアチャカぶりに、コマワリが青田赤道でも見るようにゲタゲタ笑っていたら、それで正解なのではないだろうか。

もちろん、コーラスと三味線と電気楽器という、本来なら水とアブラのような諸要素が自然に溶け合っていることにもご注目いただきたいし、日本的なものを現代の感覚の中に見出し得た点では、近頃ウサの矢野顕子などよりも遥かにスケール大きくレベル高いものになったと確信している。